

【第101回生涯教育講座】

閉塞性脳血管障害の最近の話題

あき 秋 山 恭 彦 上 村 岳 士  
 みや 宮 ざき 寄 たけ 健 し 史

キーワード：脳梗塞，一過性脳虚血発作，心房細動，アテローム硬化症

要 旨

脳卒中は、医療進歩によって現在は死亡する疾患ではなくなってきている。しかし逆に、身体機能と高次機能の障害を来す疾患として大きな問題となっている。脳梗塞は脳卒中の約7割を占めるが、この古典的疾患も、近年の新しい医療技術や治療薬の開発によって治療法は刻々と進化している。本稿では、最近の脳梗塞治療のトピックスとして、一過性脳虚血発作（TIA）、心房細動と脳梗塞、急性期脳動脈再開通療法、脳梗塞の血管内治療を中心に述べる。

はじめに

平成23年の厚生労働省人口動態統計では、脳卒中死亡は日本人の死亡原因の第4位へ後退した（年間死亡数約13万人）（図1）。しかし脳卒中患者数は約150万人で、要介護となる原因疾患の第一位である。特に比較的若年者、また、男性が要介護となる原因の40%以上を占めている。認知症の原因疾患としてもアルツハイマー病に次いでおり、今や脳卒中は死亡する病気ではなく、1）身体機能が障害される、2）認知症となる、このために生活の自立が失われる疾患である（表1）。脳卒中罹病者数は、今後も増加して2020年には

日本人の死因別死亡数割合

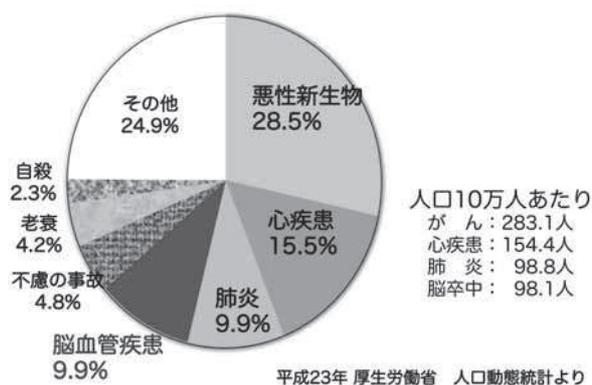


図1 日本人の死因別死亡数割合

300万人に達すると推計されている。本稿では、脳卒中の約7割を占める閉塞性脳血管障害（脳梗塞）の治療における最近のトピックスをとりあげて概説する。

Yasuhiko AKIYAMA et al.  
 島根大学医学部脳神経外科  
 連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1